

■平成 28 年 10 月 16 日に成逸総合防災訓練を実施しました。秋晴れの少し暑いほどでしたが、26 町内会、216 名の方が避難され、防災訓練にご参加いただきました。

今年の成逸総合防災訓練は 4 月に発生した熊本地震の教訓を踏まえて、新たにペット同行避難訓練を取り入れて実施しました。9 時に地震発生を想定して、まず町内会ごとの安否確認、避難支援の取組など町内での初期活動訓練を取り組んで頂きました。町内会で福祉防災マップ、町内緊急連絡網、そして災害時要配慮者支援台帳をもとに、高齢者や要介護者の安否確認をして、その後、町内会ごとに避難所である北総合支援校グラウンドに避難して頂きました。

防災訓練は参加者を 2 班にわけて、「救出活動訓練：AED の取扱いについて」「避難所運営訓練：仮設トイレの設置、ペット同行避難訓練」を全員で取り組んでいただきました。その後体育館に移動して、住協役員が演じる「防災訓練寸劇」を見て頂き、避難所開設の手順等を確認しました。

4 月の熊本地震によりこれまで想定していなかった「在宅避難、車中泊避難、そしてペット同行避難」についてその対応策の検討の重要性を確認しました。

そして 10 月 14 日には鳥取地震が発生し、その被災状況や避難所の様子がテレビや新聞で報道されました。

改めてまずは自分の命を守る「自助」と、ご近所どうしで助け合う「共助」の重要性が再認識されました。大災害が本当に身近な問題としてみなさんに確認、記憶され、日常のおつきあいの中でのご近所の「絆」や町内会の大切さを実感しました。

今年度は熊本地震の教訓をもとに、避難所運営マニュアルの改訂作業を行っています。その内容等が決まりましたら、みなさんに概要版を配布しますので、熟読いただき、大切に保管していただきますようお願いします。

◆町別の避難者数とペット数

町名	避難者数	ペット	町名	避難者数	ペット
東天神町	3	0	西若宮北半町	9	0
下天神町	11	0	西若宮南半町	8	0
上天神町	3	1	堅社北半町	9	1
天神北町	6	0	堅社南半町	11	0
瑞光院前町	10	3	社突抜町	4	0
新ノ町	7	0	社横町	6	0
東若宮町	16	0	七野社町	9	0
若宮堅町	12	0	東社町	8	0
若宮横町	5	0	中社町	17	0
北筋違橋町	8	0	前之町	8	0
南筋違橋町	2	0	東千本町	9	0
北仲之町	6	0	西千本町	11	0
仲之町	10	0	コスモ・ブリオール町	8	1
避難者数	216	スタッフ数	27	ペット	6

●防災訓練の様子

防災訓練受付



AED の取扱い



ペット同行避難の訓練



仮設トイレの設置



防災訓練寸劇の上演



避難所体育館での集合



◆平成 28 年度成逸総合防災訓練アンケート結果の報告

■「成逸総合防災訓練」の参加者を対象に「防災訓練に関するアンケート調査」を実施しましたところ、115 名の方から回答を頂きました。その結果概要を報告します。回答者のほぼ 7 割の方が 60 歳以上の方でした。

◆防災訓練に参加しての感想 —参加者の9割以上の方から今回の防災訓練が参考になったとの評価です。

①避難前の火災発生防止の対応

	回答数	比率	昨年の率
火災防止活動をして避難	74	64%	59%
火災防止活動せずに避難	30	26%	31%
未記入	11	10%	9%

○6割を超える方が火災予防活動後に避難されました。

②町内のみなさんと一緒に避難

	回答数	比率	昨年の率
近所に声かけして避難	102	89%	86%
近郊に声かけずに避難	7	6%	7%
未記入	6	5%	7%

○9割の方が近所に声掛けして一緒に避難されました。

◆家庭や町内での災害発生時への対策について —家庭での防災対策は昨年と比較してやや横ばい傾向です

②非常用持出袋の準備

	回答数	比率	昨年の率
準備している	62	54%	64%
準備していない	48	42%	33%
未記入	5	4%	4%

○非常用持出袋の準備は54%で、昨年より10%減少。

③災害に備えての日常備蓄

	回答数	比率
備蓄している	53	46%
備蓄していない	56	49%
未記入	6	5%

○ほぼ半数の方が災害時の日常備蓄をされていません。

④自宅の地震に対する安全性確認

	回答数	比率
確認した	64	56%
確認していない	43	37%
未記入	8	7%

○自宅の地震に対する安全性確認された方は56%でした。

⑤家具転倒防止対策

	回答数	比率
対策している	45	39%
対策していない	63	55%
未記入	7	6%

○55%の方が家具転倒防止対策をしていません。

⑥家族の緊急時連絡法

	回答数	比率	昨年の率
決めている	68	59%	70%
きめていない	42	37%	25%
未記入	5	4%	5%

○家族の緊急時連絡法は6割で決めているが昨年より10%減少。

⑦町内の緊急時連絡網

	回答数	比率	昨年の率
知っている	78	68%	67%
知らない	35	30%	29%
未記入	2	2%	4%

○町内の緊急連絡網は7割の方がご存知です。

◆「あなたの町内会の各防災まちづくりマップ」について—63%の方がマップを見て防災チェックをされました

②住まいについての防災面の不安

	回答数	比率
問題と感じていない	48	42%
防災面で課題がある	57	50%
未記入	10	9%

○半数の方が住まいの防災面に不安を感じている。

③住まい廻りの防災面での課題

	回答数	比率
特に感じていない	65	57%
町内会での対策を望む	43	37%
未記入	7	6%

○町内会で防災対策を望む方が37%おられる。

◆ペット同行避難訓練について

- 32%の方が参考になったと回答。意見としては
- ・不安に思っていたがなんとなくどうすべきかわかった。
 - ・現実にはいろいろな問題があると思う。
 - ・大型犬には配慮が必要。
 - ・ゲージは必ず必要。

◆回答者の防災訓練に関する主な感想

- ・参考になった、とてもよかった」と多くの方の感想です。
- ・町内の平素のつきあいが大切と改めて感じた。
- ・いざという時地域一丸となって取り組む大切さを感じた。
- ・防災役員がしっかりしているので安心です。
- ・寸劇では避難所開設の手順が大変わかりやすかった。
- ・いつも同じ人しか参加しないことが残念です。

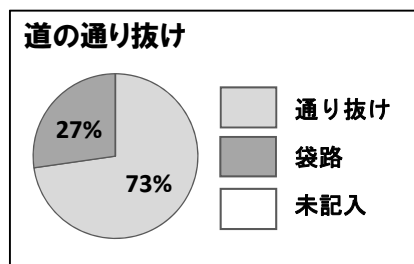
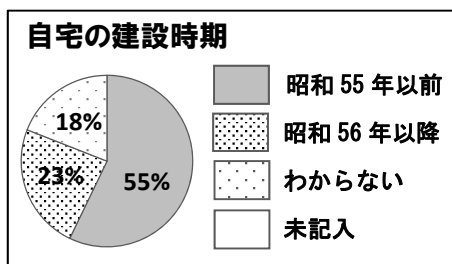
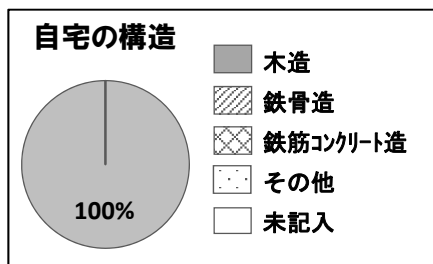
成逸防災まちづくりアンケート調査結果報告（下天神町）

(1)下天神町の防災まちづくりアンケート調査の結果概要

●回収状況 配布数：35 回収数：22 回収率：63%

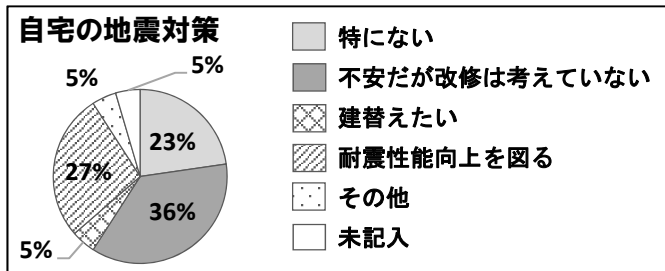
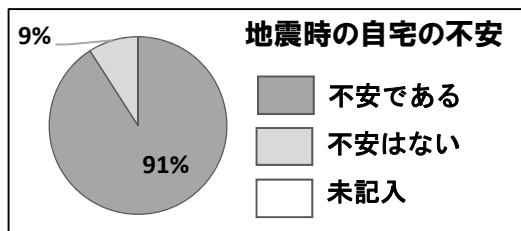
①回答者の「いえ（自宅）」と「みち（自宅の前の道）」の状況

- 自宅の構造はすべて木造で、旧耐震設計の昭和 55 年以前が 55%と半数を超えている。
- 自宅前の道の幅員は 4m以上が 45%、2.7~4mが 32%、1.8~2.7mが 14%、1.8m未満が 5%でほぼ半数が 4m未満で、袋路も 27%見られる。
- 旧耐震設計基準の木造建築が大半で、4 m未満の道や袋路など、防災面の課題が確認される。



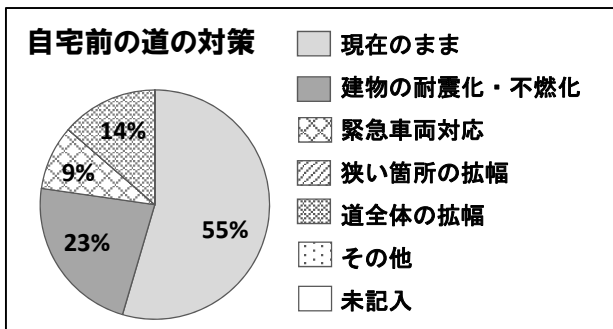
②（問）地震があった時、ご自宅は不安？ → ③（問）地震に対する不安をなくすための取組？

- 地震に対して 91%の方が不安の回答で、学区全体の比率の 69%を大きく上回る。
- 地震に対する取組は「特にない」と「不安だが改修は考えていない」を合わせ 59%の方が取組は考えていない。一方、「建替えたい」「耐震性能向上を図る」の回答は 32%を越える。学区全体と比較すると、地震への不安度が高く、地震対策への意向も高い結果です。



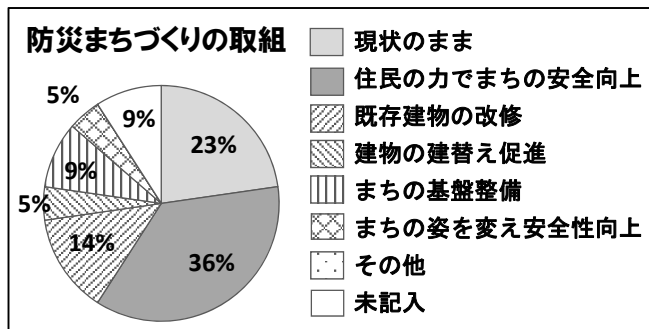
④（問）自宅の前の道の対策について？

自宅の前の道について、55%の方が「現在のままで良い」の回答で、45%の方が対策必要と考えている。「道全体の拡幅」意向が 14%見られ、道全体の拡幅意向は学区全体よりも高い。



⑤（問）町内会の防災まちづくりの取組？

町内会の防災まちづくりについては「住民の力でまちの安全向上」が 36%と最も多い。まち全体としての取組意向は 55%で、個々の取組 37%よりも多く、まちとしての取組意向が高い。



⑥ (問) 防災まちづくりアンケートに記述された「下天神町」の回答者の自由意見の概要

●道について	<ul style="list-style-type: none"> ・道幅が狭く不安なのでどうしようもないが何か方法はないでしょうか？ ・路地の土地所有者も含め、関係者で、もっと防災に力をいれてほしい。
●まちの課題	<ul style="list-style-type: none"> ・古い家屋が多く、土地所有者と住民がもっと防災の話し合いをすべき。
●大災害への不安	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者になり動作が鈍くなるので、常に早めに動きたい。 ・災害に備え、非常用持出品など最低限準備しようと思った。 ・身内と連絡が取れるかが心配。 ・避難所での共同生活はとてもできないと不安だ。

■ 下天神町の防災まちづくりアンケート調査から見る下天神町の状況

◆ 防災まちづくりアンケート結果の概要

- ・耐震上課題のある木造建築が大半で、4m未満の道や袋路など、防災面の課題が確認される。
- ・学区全体と比較すると、地震への不安度が高く、地震対策への意向も高い。
- ・道全体の拡幅意向はかなり高く、まちとしての防災まちづくりの取組意向が高い。
- ・路地の拡幅や袋路の改善などで、土地所有者も含め、関係者で防災に力を入れる。

◆ アンケート結果を踏まえ、下天神町の防災まちづくりに向けて想定される内容

- 耐震性、耐火性が不足する住宅が見られ、建物の耐震・防火対策に取り組む。
- 4m未満の道路や袋路も多く、道路の避難安全性向上に向け、土地所有者と協働の取組を進める。
- 下天神町内会として『みんなで守り 支え合う 安全で住み良い』まちづくりに取り組む。

(2) 下天神町のみなさんの「災害時への備えの状況」と「学区の防災の取組に対する認知度」

⑦ (問) 災害時の備えのチェック

災害時の自宅等の備えは多くの項目で半数以上の方が対策されていません。

災害時の備え	下天神町		
	知っている	知らない 対策していない	未記入
地域の集合場所等	91%	0%	9%
非常用持出袋	18%	73%	9%
災害時に備えての日常備蓄	18%	68%	14%
自宅の耐震性チェック	27%	64%	9%
室内の家具転倒防止	41%	50%	9%
出入り口・通路の安全確保	77%	9%	14%
家族の緊急時連絡法	32%	59%	9%
地域の緊急連絡網	68%	18%	14%

⑧ (問) 成逸学区の防災の取組の認知度

成逸学区では町内会を基本の様々な防災の取組が実施されているが、成逸独自の取組である「避難所運営マニュアル」と「ほっと安心カード」は半数の方が知らないとの回答でした。

成逸学区の防災の取組 の認知度	下天神町			
	保管	知っているが 保管せず	知らない	未記入
福祉防災地図	45%	23%	18%	14%
防災マップ	59%	5%	27%	9%
避難所運営マニュアル	23%	9%	45%	23%
ほっと安心カード	知っている 41%		知らない 41%	未記入 18%

◆ 災害から少しでも自分や家族を守るために！！

- 最近の大災害を教訓に、もしもの時に備え、小さな備え（取組）の見直しが必要です。
- 今一度もしもの時に自らの身を守る（自助）に努めるとともに、ご近所、町内会で守り、支え合う（共助）ことを日頃から意識することが大切です。

■ 下天神町「路地・防災まちづくり計画」策定に向けて

今回の防災まちづくりアンケート調査の結果を踏まえ、平成26年度から取り組んでいる「成逸防災まちづくり計画」のまとめとして、下天神町「路地・防災まちづくり」を策定します。